



# 「くまもとの夢」の実現へ取組みを加速！

熊本県知事 蒲島 郁夫

来年三月、いよいよ九州新幹線の全線開業を迎えます。また、平成二十四年には、熊本市の政令指定都市移行が実現します。将来の飛躍に向けた絶好のチャンスを迎えている今、わたしが目指すのは、道州制の導入を見据えた、州都の実現です。

そのため、豊かな自然とその恵みである安全な食、多彩な文化や歴史などを生かした、品格あるくまもとづくりを進めてまいります。また、教育が夢への架け橋となり、優れた人材が地域の産業を支え、県民が健康やかに暮らせるような取組みにも力を注いでまいります。さらに、幹線道路を始めとする社会基盤の整備などにより、九州の中心にふさわしい拠点性の向上を図ります。そして、わたし自らが先頭に立ち、本県の魅力を広く国内外にアピールしてまいります。

このような取組みにより、誰もが「生まれてよかった、住んでよかった、これからはずっと住み続けたい」と思えるような熊本づくりを進めてまいります。

## 喫緊の課題への対応

熊本県が抱える川辺川ダム問題、水俣病問題という喫緊の課題については、時間的緊迫性をもって取り組み、一定の道筋をつけることができました。ただ、未だ乗り越えるべきハードルも多く残されており、今後とも、課題解決に向け、精一杯の努力を重ねてまいります。

## 平成二十二年度予算について

今年度は、「くまもとの夢実現」を加速化させる事業への重点化を図るとともに、県

内の景気浮揚や雇用確保に積極的に対応する予算としました。特に、九州新幹線全線開業、政令指定都市の実現など、将来に向けて大きく動き出す熊本を築いていく事業を、五つの方向性に沿って新たに展開します。

あわせて、危機的な財政状況の克服と持続可能な行財政システムの構築を目指した「財政再建戦略」の取組みを着実に進め、財政再建との整合も図りました。

以下に、今年度の主な取組みを紹介いたします。

一 農林水産業の可能性の大きな飛躍  
耕作放棄地の解消や米粉用米・飼料用米のモデル産地づくりなどで遊休農地をフル活用します。

また、トマトやイチゴなど、くまもとイチ押しブランドの生産量倍増を目指します。

さらに、農商工連携による取組みを強化し、県外や海外へマーケットの拡大を図るとともに、農林業の新たな担い手を創出し、経営力の高い農業者を育成します。

二 リーディング産業による商工業の振興  
住宅などへのソーラーシステムの設置を促進し、太陽光発電普及率日本一を目指します。

また、「稼げる県」に向けリーディング企業などを育成するとともに、産業技術センターの整備により、くまもと発の新技术開発などを支援します。

三 高齢者が主役の地域づくり  
高齢者の起業化や地域活動など、高齢者が主役の活動を応援します。また、認知症高齢者の支援を拡大すると

ともに、要介護者の状況に応じたサービスを提供します。

さらに、過疎地域などにおける深刻な医師不足を早期に解消するための取組みを行います。

四 新幹線全線開業、熊本の拠点性向上  
県内外の企業との連携により観光キャンペーンなどを展開し、くまもとの認知度を向上させるとともに、小山薫堂氏が提案された「くまもとサプライズ」の取組みを広げるなど、新幹線全線開業効果の最大化を図ります。

また、鞠智城の国営公園化や万田坑・三角西港といった近代化遺産群、阿蘇などの世界遺産登録の実現を目指すなど、歴史回廊くまもとを発信し、品格ある景観を形成します。

さらに、本県の宝である水資源の保全や地球温暖化防止活動を拡大してまいります。

五 進学、就業等若者の「夢」の実現  
子供たちが経済的な理由で大学などへの進学を断念することのないよう、奨学金貸与などによる支援を行うとともに、魅力ある私学づくりを推進します。

また、県内各地域にジョブカフェ・サテライト員を配置し、若年者の就職決定者数の増大を図ります。

## 最後に

このような取組みを進めながら、わたしは、大きな可能性を秘めた熊本を「躍動し、飛躍する県」に変え、県民の総幸福量を最大化する、という使命を果たすため、全力で県政運営にまい進してまいります。